

石井助産院開院10周年記念特別インタビュー

◆2012年3月6日で開院10周年を迎えた石井助産院。
石井先生に開業に至るまでのお話や助産師としての想い、
今後の夢などお聞きしました。(聞き手:羽坂・岩切)

母の夢を受け継いで看護師の道へ

先生が助産師を目指したきっかけとは?



幼い頃から「看護師になりたい!」という夢を持っていたわけじゃなくて(笑)。実は、看護師になりたいという夢を抱いていたのは私の母親のほうだったんです。自分の夢を娘に託そう…!と思ったんでしょうね。進路を考えていた時に、母から「看護師にならない?」と言われて「そうじゃあ、なるのかな…」という感じで看護師への道へ進むことになったんです。

看護師学校と助産師学校、どのくらい通ったの?

5年間です。学生時代にはほぼ全ての科の実習をしました。内科、外科、小児科など…。もちろん産婦人科の実習にも入りました。

「助産師ってカッコいい!」衝撃をうけました

産婦人科の実習に入ったとき、そこで見たお産の光景がすごかった。産婦人科の先生よりも助産師さんのほうが輝いて見えたくて。体格の良い定年間近のおばちゃんみたいな方だったんですけれど(笑)スタスタと風をきって歩いてきて、堂々とテキパキとお産を取り仕切る姿に、もう、感銘を受けました。はじめて見るお産のインパクトよりも、助産師さんのそのカッコよさに惚れてしまったっていうか。その瞬間「私の道はこれだ!」と思いました。せうたいに助産師になるう!という目標が、学生時代にすでに定まっていたんです。



石川から奈良へ…就職、そして結婚出産を経て

御主人との出会いは?

主人とは地元の石川県で出会いました。主人が工業大学の学生で、私も看護学生だった頃にお友達に紹介してもらってお付き合いが始まりました。でもその時すでにお互い就職先は決まっていたんです。私は地元の総合病院、主人は奈良の会社だったので、遠距離恋愛をすることになりました。3年ほど遠距離恋愛をして結婚することになり奈良へとやってきました。

奈良に来て、どこでお勤めを?

県立奈良病院の産科です。ちょうどその頃、岡村(義)先生が県立で働かれていて、他の先生は特にこれといって印象がなかったのですが、岡村先生だけはよく覚えています。お産が上手い先生だなあ〜って。お父様の技術を受け継がれていらっしゃるんだなと。県立奈良病院で1年ほど働いた頃に長女を妊娠しました。妊娠、出産を機に一旦退職することに。娘をちを石塚助産院さんで、年子で出産しました。

再び助産師として働きたい…

下の娘が1歳3か月頃かな?生活時間にゆとりができてきたので再就職を意識し始めました。再就職先を探すにあたり、岡村(義)先生のところまで…と思い、最初に岡村産婦人科さんに問い合わせをしました。ところがまだ岡村(義)先生は、社会保険病院にいらっしゃったんですよね。岡村産婦人科の理事長さんに「うちは助産師さんは雇ってないの!」ってみごとフラれちゃって…(笑)そこでパートとして東九条病院の看護師として働き始めました。お産とは関係のない1年を過ごした頃、「ああ、やっぱりお産に携わりたい!」という気持ちがあって、自分が出産した石塚助産院の門をたたいたんです。本当はその頃、自分が助産院を持つなんてまだまだ夢のような話だったんですけど、お産に関わりたいが為につい、必死になって言っちゃったんです。「自分の助産院を開院したいの!」でこころを勉強させて下さい!」って(笑)今考えると大きなこと言ったな〜って思いますね。



幼い娘と離れて、助産院開院のための修行へ

では石塚先生のところで助産師の下積みも?

いえ、思いがけず大きな決断をすることになりました。当時、石塚先生が全国助産師会の会長をされていて、私のような助産師を目指す人の指揮となる存在だったんです。石塚先生に「うちで勉強するのであれば、助産師会が行っている、助産院開院のための1年コースに通ってはどうか?」と言われて。それは1年間、全国各地の助産院に入って実習、勉強するというものでした。月曜から金曜まで通うことになるので幼い娘の世話との両立は難しく、悩んで悩んで主人に相談しました。そうしたら「今しかないチャンスなのであれば自分のやりたいことをやってみたらいい」と賛成してくれて。和歌山に住んでいる主人のご両親に子どものお世話を頼めるかどうかをお願いに行きました。ありがたいことにお義母さんも賛成してくれて子どもたちを預かってくれることになりました。本当に家族には感謝の気持ちでいっぱいでした。一年間、単身で暮らしながら月曜から土曜まで研修に通い、日曜に家族や子どもに会いに和歌山に通っていました。幸い研修先は全て関西圏だったので、研修でくたくたになりながらも休みの日は子どもたちと一目でも会いたくて。土曜の夜から和歌山入りして翌日夜に帰っていく…というハードな生活でした。今思えば「そこまでやるか〜?」というくらい、パワーのある時期だったと思います。

娘さんたちは当時おいくつでしたか?

上の子が3歳、下の子が2歳頃でした。一番可愛い時期だったので離れて過ごすのがせつなかつたです。



いつも週明けの別れの時、上の子は私を気遣って「お母さん、早く行き!」と強がりながら言ってくれて。いじらしい姿でした。…下の子は当然幼いので、なかなか私と離れることができませんわん泣いていました。本当につらかつたです。でも、子どもたちや協力してくれている家族の為にも、絶対に開院するぞ!と思って1年間必死に研修に通いました。

🍀 開院準備は まるで導かれるかのように

研修後、しばらくは石塚助産院でスタッフとして働きました。そして石塚先生に正式に「開業して助産院をやりたいんです」と相談して、開院の為のノウハウを学び、ご指導をいただきながら助産院開院の為の準備にとりかかり始めました。

助産師仲間の青柳先生に「嘱託医(助産院のかかりつけの医師)の先生を探している」と相談したところ、青柳先生から岡村(義)先生にその旨をご依頼下さって。ちょうど岡村(義)先生がご家業の岡村産婦人科に戻られることになった時期で、助産院の最寄の医院ということもあり、岡村(義)先生は二つ返事で嘱託医を引き受けて下さったんです。



—— 開院するのに嘱託医探しは苦労するとお聞きします。まさにタイミングと、岡村(義)先生とのご縁ですね！



ええ、本当に。私もあまりにもトントンと話が進むので自分のことながらびっくりしちゃいました(笑) 当時、岡村産婦人科には看護婦さんのみで、助産師さんがいなかったんです。新たに助産師外来を院内で立ち上げるということで、ちょうど岡村(義)先生も立ち上げに関わってくれる助産師がいなかったら探しにいらしたところだったんです。ちょうど私は助産院(兼自宅)を建築している最中だったので、おのずとその流れで建築期間中は岡村産婦人科の助産師として働かせていただくことになりました。

🍀 平成 14 年 8 月 6 日 石井助産院開院！



開院は今までのことを思い出したりして、感慨深かったです。嬉しさと共に「まあ、いよいよこれからだ！」と気合が入りました。最初のうちはスローペースでお産をとっていきました。その後、くちコミや助産師仲間からのご紹介で少しずつ名前が広まっていった感じかな。自分の助産院で赤ちゃんをとりあげた感動はこの上ない喜びでした。今でも鮮明に覚えています。

🍀 「喜んでもらいたい」その一言に尽きます。

—— 現在、何人の赤ちゃんが石井助産院で生まれましたか？ 平成24年4月時点で137人です。

—— 100人をごえていらっしゃるんですね！助産師としての仕事への想いをお聞かせください。

…そうですね。やはりお母さんやご家族に「喜んでもらいたい」この一言に尽きますね。自分らしいお産、出産というものを楽しんでいただけたら幸せです。元気に赤ちゃんをうみ、元気にうまれてくる、これが一番です。助産院というのは、出産したらお互いの関係がおしまいになる場所ではないと思っています。

産後も寺小屋的な感じで、お母さんやお子さんがいつでも帰ってこられるような存在でありたい。色々な悩みを抱えているお母さんたちに、安らげるひとときや場所、出会いや可能性を広げられるような機会を提供していきたいと思っています。

🍀 コンサート鑑賞やマラソンを通して

自身の輝きを磨き続ける

—— 先生の若さはみんなの憧れです！多忙な合同のプライベートはどのように過ごされていますか？

ご存知の方もいらっしゃると思うのですが、コンサートに行くのが好きです(笑)娘と一緒にジャニーズのコンサートに出かけたり、あとコブクロとかドリカムとか。娘が受験だったので、ここ数年は控えていましたが今年はコンサートに行きたいなあ〜！お産をお手伝いして下さっている松倉さんもコンサート鑑賞が好きな方なので、お会いするとそのようなお話を盛り上がります。健康という面ではマラソンをやっていますね。昨年末は奈良マラソン(10Kコース)に出場しました。正直、走っているときは苦しいのですが、奈良の美しい景色や沿道で応援して下さる人のあたたかい声援など本当に嬉しくて楽しくてハマっちゃいましたね〜。マラソンはこれからも続けたいです。

🍀 自分の孫の出産に寄り添えたら最高！

—— 将来はご自身のお孫さんも出産のお手伝いという可能性もありますね。

うふふ(笑)そうですね！ いった自分の孫、そしてお産された方のお孫さんの出産に寄り添えたら最高ですね！ 助産師として、せひ叶えてみたい夢です。これからも、みなさんに愛される助産院でありたいです。



◆インタビュー中、終始ニコニコとお話されていた石井先生。みんなをあたたく照らし続けるお日さまのような笑顔でこれからも頑張っていたいただきたいと思います。助産師として、女性として、母として輝き続ける石井先生のますますのご健勝とご発展を心よりお祈りいたします！